

平町長の後任問題

大勢青沼氏に傾く

豫算町會の席上にて 伏見氏圓滿辭職か

平町長の後任問題に就いては、最初中立組の多數を以つて青沼錫太郎氏を擁立し、盛んに策動する處あつた爲め、井上氏一派も漸くその説に同化し、今では大勢が青沼氏を以つて適任とする處に落ち付いたらしいが、唯野崎氏一派は未だ伏見氏の説を離れざるに於て、平町長の行動を執り度いと遠藤林松、佐々木龍若の兩氏が其間を奔走中であり結局は青沼氏説に一致を見るの形勢であるが伏見

誠意以つて…… 其衝に當る決意

青沼錫太郎氏語る

町長就任に就いては中立組の諸君から一應の話があつただけで未だ正式の交渉には接して居ないが平町は自分の出生の地であり且つ墳墓の地である關係上、町會議員の同僚諸君が多數を以つて余の就任に御聲援下さるものとすれば自分としては町治の圓滿から考へても競争して迄も現職を引

町長の椅子争奪を 絶対に避け度い

伏見現町長語る

私は町治の圓滿から考へても競争して迄も現職を引

がさねばならぬとは考へて居ない、故に多少は私に對して厚意を持つ人もあり現職に止まされど徳徳する向もあるが是等もよく諒解を求めてどうにか調子を整へ

平町に開かれる 本縣青年團總會

櫻花爛滿の候を期して 縣下四百の人々參集

本縣聯合青年團の總會は毎年一回四月の候を期して開催される筈であつてその開催地は福島、若松、郡山、平町の四ヶ所を

巡回のに 當番する

事になつて居る、昨年若松に於て開催の際次回が平町と決定しその都合に依つて縣の副團長に大森勇氏を推

歓迎方法

其他大體の方針を協議する處あつたが是れが爲め縣下より平町に參集する人員は約四百と目され翌日は多分女子青年團の聯合總會を開催される筈であるから參集者は二泊乃至三泊の豫定で櫻花爛滿の候平町を

紹介する

には絶好の機會と云ふべしである

關西團體 當日の參加歓迎

尼子亭主催關西旅行團體は

何故か

といふと折角學問をしても或る職業につくとして専門學校を卒業した曉、又腕が出来たとしてもその時代において需要のないやうなものであつては技術を持ち腐らせることになるつまりそれに直ちに生活難といふことになつてつかるのが當然である世の

成功者

など、いはれてゐる人はすべて、先きの事をよく考へて事を

敗經驗でも醫師としても患者として心得なければならぬことが随分澤山ある様に思ふので今迄に得た或者の一部を公開して見やうと思つたのである、故に其凡てが實話で決して虚構な小説的笑話でない私は未だ笥に過ぎない、皮を全部剥ぎ終らぬ中は竹の用を爲さな

昂騰を豫期し 活氣が横溢

濱三郡の木炭

石、相、双の濱三郡木炭同業組合における去月中の木炭生産高は

△双葉郡八萬四千五百五十八俵 △相馬郡三萬八千六百六十五俵 △石城郡九萬五千九百七十三俵 合計二十一萬九千九百九十六俵

これを昨年同期に比較すると僅に二百五十一俵の減少であるが前月に比較する時は驚く勿れ四萬九千四百九俵の大激増振である

天氣良く 海上荒れ 模様

元郡役所へ 警察署移轉

警察部長來平 下檢分を爲す

平警察署が元郡役所に移轉すべき關係により是れが下檢分の必要上本日午後七時平驛着にて中村警察部長來平さるゝ筈

頭部に坑木 運搬夫慘死

石城郡好間村古河炭礦運搬夫田村郡川瀬町生れ菅野利造(三)は十二日午前十時頃坑内にて石炭積込中坑天井より支柱墜落し來り頭部に重傷を負へ昨日死去したと

卒業期を控へ 就職と就學

十年の後を考へよ 唐土警中校長談

三月になつたら何處の學校でも數多の卒業生が出来る譯であるが、さてその卒業生は小學校を終へた者は中學校なりその他の専門學校なりならず、むことであらう。なほ家庭の事情やその他の都合のため

上級の 學校にすゝむ

むことの出來ない子供も數多あることであらう、たゞ

自分の 長所といふ

やうなことを考へなければ上の學校にすゝむにしてもまた社會の人となるにしても結局失敗を招きがちである。それはすべて現在より

習得し

技術なりが時代に會はず方面違ひの仕事を始めの場合が非常に多いのであるいは見通しがきかなければ學問技術を修めても無爲に終るから學校の卒業期にはよくこれを考慮する事が必要である